

## 第2 実践事例

### 事例1 単元を貫く課題設定より、「話すこと [発表]」につながる「聞くこと」の事例

- 学年 第1学年  
 ○主な領域 「聞くこと」  
 ○事例のポイント
- ①「ALTに日本固有のものを効果的に知ってもらおう工夫とは」を単元を貫く課題とし、単元の導入時に一度「話すこと [発表]」として活動に取り組みせしめることや、学習が進むにつれて何度も「話すこと [発表]」に戻りながら取り組みせしめることで、自身の課題を捉えさせ、達成状況を把握させた上で単元の学習につなげる。
  - ②単元を超えて「話すこと [発表]」については継続的に指導を行うため、記録に残す評価については以降の単元で見取るようにする。本単元では「聞くこと」のみ評価する。
  - ③未知の英文を聞き取らせる際に、どんな点に着目して聞くかを明確にすることや聞いたことを他者へと伝達する活動を設定することで、より英文の概要を捉えさせることの意義や内容伝達の効果的な方法について体感させる。
  - ④バランスよく言語面と内容面の両方に焦点をあて、繰り返して指導する場面を設ける。
  - ⑤主体的に思考する活動を促すために、ICT端末の利点を生かし、主に聞き取る場面や発表する活動において効果的に活用する。

1 単元名 PROGRAM 4 *Let's Enjoy Japanese Culture.* (Sunshine English Course 1 開隆堂)

2 単元について (略)

3 生徒の実態について (略)

#### 4 単元の目標

日本固有のものや文化についての自分の考えが発表できるように、「be 動詞(三人称)」や「疑問詞 who」および「三人称を表す代名詞〈主格〉」を用いて書かれた日本固有のものについて話された文章の概要、またその内容等を聞き取ることができる。

- ・「be 動詞(三人称)」や「疑問詞 who」および「三人称を表す代名詞〈主格〉」の特徴やきまりについての理解をもとに、英語で話された内容を聞き取る技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- ・日本固有のものや文化について話された文章の概要を捉えた上で、自分の考えを交え、その内容等を聞き取っている。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・日本固有のものや文化について話された文章の概要を捉えた上で、自分の考えを交え、その内容等を聞き取ろうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

#### 5 単元の評価規準

(本単元における「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「書くこと」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。「話すこと [発表]」については活動をするものの、単元を超えて継続的に指導を行い、以降の単元において「話すこと [発表]」における「思考・判断・表現」の達成状況について評価に残すものとする。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと (聞)	<知識> 「be 動詞(三人称)」や「疑問詞 who」および「三人称を表す代名詞〈主格〉」の意味や働きを理解している。 <技能> 「be 動詞(三人称)」や「疑問詞 who」および「三人称を表す代名詞〈主格〉」の理解をもとに日本固有のものや文化について書かれた英文の内容を聞き取る技能を身に付けている。	日本固有のものや文化に関する紹介に生かすために、クラスメイトやALTが行う紹介スピーチから、紹介したものの理由、使用用途などの概要を聞き取っている。	日本固有のものや文化に関する紹介に生かすために、クラスメイトやALTが行う紹介スピーチから、紹介したものの理由、使用用途などの概要を聞き取ろうとしている。

6 単元の指導と評価の計画（5時間扱い）

時	◆ねらい ○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	<p>◆本単元で理解する内容や身に付ける技能を確認する。</p> <p>◆「be 動詞(三人称)」や「三人称を表す代名詞〈主格〉」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し、他者に日本固有のものや文化について伝える活動を通し単元を通して伝えられるようになることを確認する。</p> <p>○日本にあるものや文化について ICT 端末を用いて、既習の事項をもとに、クラスメイトに英語でその概要を説明する。</p> <p>○「be 動詞(三人称)」や「三人称を表す代名詞〈主格〉」の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。</p>				<p>事例のポイント⑤ 主体的に思考する活動を促すために、ICT 端末の利点を生かし、主に聞き取る場面や発表する活動において効果的に活用する。</p> <p>事例のポイント① 「ALT に日本固有のものを効果的に知ってもらふ工夫とは」を単元を貫く課題とし、単元の導入時に一度「話すこと [発表]」として活動に取り組みせることや、学習が進むにつれて何度も「話すこと [発表]」に戻りながら取り組みせることで、自身の課題を捉えさせ、達成状況を把握させた上で単元の学習につなげる。</p>
	<p>編 P140 指導計画作成の留意点(3)</p> <p>国語科や社会科など他の教科等で学習した内容を取り上げることができる。</p>				
2	<p>◆教科書本文 (Think 1、2) において、紹介されている日本文化が何かを知るために、必要な情報や概要、要点を聞いて理解する。</p> <p>◆聞き取った概要について、クラスメイトに英語を用いて伝達する活動を通して事実を整理する。</p> <p>○「be 動詞(三人称)」や「三人称を表す代名詞〈主格〉」および「疑問詞 who」の用法が用いられた教科書本文について、デジタル教科書を活用し、聞き取る活動を通して、紹介されている日本のものや文化についての概要を捉える。</p> <p>○聞き取った概要を、クラスメイトに英語で伝達する活動を通して、表されている情報や事実を整理する。</p> <p>○内容を共有した後、伝えたいものを効果的に伝えるための工夫について教科書の英文を用いながら、振り返る。</p>				<p>事例のポイント④ バランスよく言語面と内容面の両方に焦点をあて、繰り返して指導する場面を設ける。</p>
3・4	<p>◆教科書本文 (Think 1、2) を読み内容を正確に理解し、情報伝達の際に必要な工夫について整理し、再度教科書に書かれている概要を他者へと伝達する。</p> <p>◆教科書本文を用いながら、「疑問詞 who」の用法の特徴やきまりに関する事項を理解する。</p> <p>○本課で学習した用法が用いられた教科書本文の内容について音読活動を通じて整理し、理解する。</p> <p>○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、本課で学習した二つの用法などを活用して、事実を話す。</p> <p>○教科書本文の内容やそれに関連した内容について自分の考えをもち、他者と意見交換する。</p>				<p>「評価についての考え方」 本単元においては、第1時から第4時までは、目標に向けて、記録に残す評価は行わない。ただし、生徒の学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間行う必要がある。活動させているだけにしないよう十分留意する。</p>

5 本 時	<p>◆自分が伝えたい日本固有のものや文化についての発表に生かすために、クラスメイトやALTによる紹介スピーチを聞き取る。</p> <p>○教科書本文の内容を活用し、日本固有のものや文化について考え、クラスメイトやALTに伝える。</p> <p>○クラスメイトやALTの発表を聞き、紹介している日本固有のものや文化についての概要を聞き取る。</p> <p style="text-align: center;">編 P140 指導計画 作成の留意点(2)</p> <p><b>事例のポイント③</b> 未知の英文を聞き取らせる際に、どんな点に着目して聞くかを明確にさせたり、聞いたことを他者へと伝達する活動を設定したりすることで、より英文の概要を捉えさせることの意義や内容伝達の効果的な方法について体感させる。</p> <p>○聞き取ったことをもとに、効果的に伝えるための工夫について考え、他者との意見交換をもとに自身の発表へと生かす。</p> <p><b>事例のポイント②</b> 単元を超えて「話すこと[発表]」については継続的に指導を行うため、記録に残す評価については今後の単元で見とるようにする。本単元では「聞くこと」のみ評価する。</p>	聞	聞	<p>◎日本固有のものや文化に関する紹介に生かすために、クラスメイトやALTが行う紹介スピーチから、紹介したものやその理由、使用用途などの概要を聞き取っている。〈ワークシート分析〉</p> <p>◎日本固有のものや文化に関する紹介に生かすために、クラスメイトやALTが行う紹介スピーチから、紹介したものやその理由、使用用途などの概要を聞き取ろうとしている。〈観察及びワークシート分析〉</p>
後 日	<p>・ペーパーテスト</p>	聞		<p>◎「be 動詞(三人称)」や「疑問詞 who」および「三人称を表す代名詞〈主格〉」の意味や働きを理解している。</p> <p>◎「be 動詞(三人称)」や「疑問詞 who」および「三人称を表す代名詞〈主格〉」の理解をもとに日本固有のものや文化について書かれた英文の内容を正確に聞き取る技能を身に付けている。</p>

## 7 本時の展開

目標 自分が伝えたい日本固有のものや文化についての発表に生かすために、クラスメイトやALTによる紹介スピーチを聞き取ることができる。

準備 ワークシート、振り返りカード、ICT端末（生徒用）

○本時の展開 (5 / 5)

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	<p>○挨拶をする</p> <p>○日本固有のものや文化について教師とALTのやり取りを再び聞く。</p> <p><b>事例のポイント①</b> 日本のことをあまりよく知らないALTにむけて、日本固有のものや文化について、英語によるやり取りを行い、話題に興味を持たせる。第1時に同様の話をし、発表をさせているため教科書で学んだことを通して、英語を用いて効果的に伝える視点も理解させる。</p>	<p>・全体で挨拶をする。</p> <p>・その日の授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。</p> <p>・題材の内容として、教科書で学んだことや日本固有のものや文化について触れる。</p> <p>・教師とALTとの会話の概要について生徒とのインタラク션을図りながら確認を行う。</p>
	<p>教師とALTの対話例</p> <p>ALT: At first, I didn't know about Japan so much. But now I know some Japanese things like <i>Bokuju, karuta</i> and so on.</p> <p>JTE: I see. We study many things from PROGRAM 4, right?</p> <p>ALT: Yes. So now I want to know about Japanese things more.</p> <p>JTE: OK. In this classroom, many students can help you.</p> <p>ALT: Thank you. I also have an interesting thing in my country. In the end, I can tell about it to everyone.</p> <p>JTE: That's great. So, everyone, what do you do for it?</p>	<p>○本時の目標を把握する。</p> <p>・本時の目標を提示する。</p>
	<p>クラスメイトやALTが説明した「内容」について聞き取り、伝え方の工夫やその内容を理解しよう</p>	
展開 35分	<p>○マッピングで自分の考えを整理する。</p> <p>○ICT端末を用いて、プレゼンテーションソフトのスライド上に図や画像をまとめながら短時間で資料作成を行う。</p> <p>○紹介したい日本固有のものや文化についてペアに英語伝達(説明)をする。</p> <p>○発表後、聞き手だったパートナーが話者の話を英語で伝え直しをする。</p> <p>○教師からのフィードバックを行う。 ・発表がどんな内容であったか、よりよく伝える表現を確認し、共有する。</p>	<p>・文章を書くのではなくキーワードでメモを取るように促す。</p> <p>・相手に説明するための補助として用いるために、英文を打ち込むのではなく、図を用いながら説明するようにさせる。</p> <p>・生徒の発表している様子を聞き、内容を効果的に伝えている表現や共通する誤りを取り上げる。</p> <p>・発表につまる生徒には、アドバイスをする。</p> <p>・発表を聞く生徒については、内容について適宜メモを取らせ、理解が深まるように取り組ませる。</p> <p>・相手の話を聞いたことをもとに、英語で伝え直しをさせることで表現の確認だけでなく内容理解についての確認を互いにさせる。</p> <p>・机間指導を行い、内容面だけでなく言語運用面についてのフィードバックが行えるよう、生徒の活動状況を把握する。</p>
	<p><b>事例のポイント③</b> 教科書にある表現を使っている例を示して、教科書をもう一度開かせるなど活用を促す。 例: First, Then, などを使うと、順序立てて相手にわかりやすいように伝えることができるため、聞き手の理解が深まるなど。</p>	<p>・相手の話を聞いたことをもとに、英語で伝え直しをさせることで表現の確認だけでなく内容理解についての確認を互いにさせる。</p> <p>・机間指導を行い、内容面だけでなく言語運用面についてのフィードバックが行えるよう、生徒の活動状況を把握する。</p> <p>・生徒が行っていた発表および伝え直しをした活動について、生徒に実際に使われていた英語の表現を伝え、考えさせ、答えを導かせる中で内容面だけでなく言語運用面に関してのフィードバックを行う。</p> <p>・伝達方法だけでなく、相手が理解しているか確認をしながら伝達をすることや、わからない内容については相手に確認をしながら聞く活動に徹するよう促す。</p>

編 P140 指導計画  
作成の留意点(4)

編 P140 指導計画  
作成の留意点(1)

編 P140 指導計画  
作成の留意点(3)

編 P140 指導計画  
作成の留意点(2)

編 P140 指導計画  
作成の留意点(1)

	<p>○役割分担を交代し、再度同じ活動に取り組む。</p> <p>○相手を変えて、再度ペアで発表を行うことを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表を聞いた後は、相手に伝え直す活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話をしている生徒だけにならないよう、クラス全体を巻き込んで指導するように配慮する。</li> <li>引き続き、机間指導を行う過程で発表につまる生徒には、アドバイスをする。</li> <li>発表を聞く生徒については、内容について適宜メモを取らせ、理解が深まるように取り組ませる。</li> <li>パートナーを変え、同様の活動に取り組ませる。伝え方の工夫や聞き取る視点についても中間指導で指導したことが生きているかどうか、机間指導を行いながら確認をする。</li> </ul>
	<p>○発表がどんな内容であったか、よりよく伝える表現を確認し、共有する。</p> <div data-bbox="255 649 766 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事例のポイント④（言語面の指導）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①言いたいのに言えない表現を知っている言語材料で言いかえる。</li> <li>②語順を正確にする。</li> <li>③1語2語の単語を文にする。</li> <li>④主題の確認をし、何について話をするのかが伝わるように話をさせる。</li> </ol> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容をよりよく伝えるための効果的な表現を確認する。</li> <li>生徒の取り組み状況から、内容を効果的に伝えている表現を共有したり、共通してみられる誤りを取り上げて指導したりする。</li> <li>板書により、内容を効果的に伝えている表現を取り上げて共有し、内容面、言語面の両方から指導をする。</li> <li>言いたかったのに言えなかった表現や、共通してみられる誤りを取り上げたりして、言語面の指導を行う。</li> </ul>
	<p>○ALTが説明する海外の文化に関する話を聞き、その内容の概要を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで行った活動を次はALTの先生から聞く活動、として取り組ませる。</li> </ul>
<p>ALTの発表例： <i>Yu Scheng</i>（シンガポール料理、イーシェン(魚生)）</p> <p>ALT: This is a dish. People in Singapore and Malaysia eat it in February. In Japan, we eat <i>osechi</i> in New Year but people in Singapore and Malaysia eat this in New Year. It's like a salad and we enjoy fish, <i>sashimi</i>, too. We eat this and we wish our wonderful future. And we say "Lo Hei!" and drop the vegetables or fish of salad from above. It's a unique food and culture but it is delicious.</p>		
	<p>○ALTとの対話を行い、内容について確認をし、共有をする。</p> <div data-bbox="255 1332 766 1512" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事例のポイント②</b></p> <p>単元を超えて「話すこと[発表]」については評価を行うため、記録に残す評価については以降の単元で見とるようにする。指導の過程で本単元では「聞くこと」のみ評価する。</p> </div> <div data-bbox="183 1590 766 1814" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事例のポイント①</b></p> <p>生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、わかったこと、わからなかったこと、生徒の学び方のよい点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手が話した内容について、ワークシートにその概要について、英語で生徒に記述させる。</li> <li>ALTとのやり取りをもとに、聞き取れなかった内容や誤って理解していたものについては赤ペンで自己のワークシート上に加筆し、自分が理解できていなかった点や誤ってしまった理由について、把握させる。</li> <li>記述したものについては回収し、生徒の個々の理解度について教師が把握できるようにする。</li> </ul> <p>◎クラスメイトやALTが行う日本固有のものや文化に関する紹介スピーチから、紹介したものが何で、その理由や使用用途などの要点を聞き取っている。〈ワークシート分析〉【思・判・表】</p> <p>◎クラスメイトやALTが行う日本固有のものや文化に関する紹介スピーチから、紹介したものが何で、その理由や使用用途などの要点を聞き取ろうとしている。〈観察及びワークシート分析〉【態度】</p>
<p>まとめ5分</p>	<p>○単元を振り返って学んだことを書く。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカードに、「仲間の発表やALTからの紹介について概要を聞き取れたか」という視点で書かせる。</li> <li>全体で挨拶をする。</li> </ul>

## 8 単元の指導の実際について

### 第1時

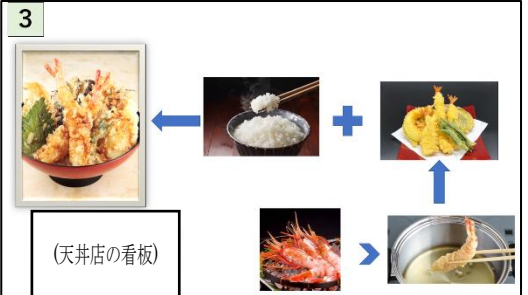
○日本にあるものや文化についてICT端末を用いて、既習の事項をもとに、クラスメイトに英語でその概要を説明する。

- ・日本の固有のものや文化について、あまり深くは知らないALTに対して英語で、日本の固有のものや文化について、紹介する場面の設定を行った。
- ・本時はその最初の時間に当たるため、まずは紹介したいものを設定した後に、自分たちの知っている知識や語彙で、そのものや事柄を説明させてみることにした。その際に、生徒から表出されたやり取りが以下のようなだった。



生徒 A : *Tendon*

A: This is *Tendon*. Do you know *Tendon*? *Tendon* is a food. *Tendon* is *tempura* and rice. And, *Tempura* is on the rice. I like it. I sometimes go to (具体的な天井店の名前), *Tendon* shop. Please eat *Tendon*. Thank you.



- ・うまくいかないと発言した生徒の中には「単語が並んでしまった」や「文としては伝えられたが、文が並んでしまってうまく伝えられたとは言えない」という反応や振り返りの記述が見られた。
- ・一方で、どの生徒も共通して「紹介するために写真を指して説明してから始めた」ということから *This is*〜 / *That is*〜. といった表現は非常に有用であるということに気付いた生徒が多かった。

### 第2時

○「be 動詞(三人称)」や「三人称を表す代名詞(主格)」および「疑問詞 who」の用法が用いられた教科書本文について、デジタル教科書を活用し、聞き取る活動を通して、紹介されている日本のものや文化についての概要を捉える。

- ・デジタル教科書の音声を取り、その概要を他者へと伝える活動を行った。概要を伝える際に、生徒は“an ink stick”や“ink stone”といった単語等を聞き取るだけでなく、その説明を聞き取る生徒が多かった。

○聞き取った概要を、クラスメイトに英語で伝達する活動を通して、表されている情報や事実を整理する。

- ・聞き取れた理由を問うと *What's this?* という表現から会話が始まっており、話題の中心になる事が分かったことや *First*, / *Then*, といった順序を示す表現もあり、説明をする際に活用できたという振り返りを行っている生徒がいた。
- ・一方で、*rub* や *grabbing cards* のような新出の英語表現については聞き取れた生徒もいたが、なかなか意味までは想像がつかないところが多かったため、概要を伝える活動の後、全体の場で、右図のように絵等を活用して実際の使用場面を想起させるようにすることで、効果的に理解を深めることにつながった。
- ・活動後、実際の場面を確認するために、デジタル教科書の動画を使用し、伝えている様子や内容、内容の全てを聞きながらまとめる活動を設定した。自分たちが伝えた内容と比較しながら、伝え忘れていたことや順序だてて伝えることの効果について理解を深めた。





### 第3、4時

○本課で学習した用法が用いられた教科書本文の内容について音読活動を通じて整理し、理解する。

- ・前時の概要理解を基に、英文と併せながら効果的に伝えるための方法や読み方（イントネーションや強勢、アクセント）などを確認した。例えば、次の文をどう読むかについても生徒からこのような発言が見られた。

Daniel: What's this?  
 Mao: It's an ink stick.  
 Daniel: Is this really ink? It's hard.  
 Mao: Look. First, **put water into your inkstone.**  
 (以下略、PROGRAM 4 Think 1 より)

日々の指導で、英語らしく読むためには次の三つが日本語とは異なる点であり、大切だということを理解している生徒である。  
 ①イントネーション（抑揚）が存在する。  
 ②アクセント（強勢）があり、強く読まれることで、相手に伝えたいところが伝わるということ。  
 ③弱い音や強い音等があり、拍（リズム）が存在するという。

生徒 A: PUT water INTO your INKstone.みたいに3拍（3箇所強く読まれるところ）で読むことができるんじゃないかな。into your はバラバラじゃなくて、くつつくもんね。  
 生徒 B: 確かに。「イントゥー ユア」じゃなくて「イントユア」みたいな感じだよ。でも put WATER INTO your INKstone.みたいに3拍（3箇所強く読まれるところ）で読むこともできそうだよ。water のあとに少し間があるイメージで。  
 生徒 C: 固形墨(inkstick)について Daniel は知らなかったから、まさか液体になると思ってない文の流れだよ。2つめの Daniel の台詞からも。water を入れるのがカギになる気がするよ。だから伝えたいところが強く読まれるとすると、同じ3拍でも今回は water を強く読むと、より思いが伝わるんじゃないかな。

- ・文中に出てくる、OK.や I see.と言った表現についても、登場人物の理解度に応じてイントネーションや伝え方が変わってくることも理解を深めていた。

○教科書本文の内容を活用し、登場人物に関する事項を英文で描写する活動を通して、本課で学習した二つの用法などを活用して、事実を話す。

- ・教科書の内容を説明する（リテリング）活動を行わせ、効果的に説明する方法についても理解を深めさせた。特に登場人物を説明するだけでなく、Think 1, 2で出てくるそれぞれの「日本のもの（固形墨や墨汁、カルタ（百人一首）」に触れながら、それが何かを表すことも説明することで、生徒自身が行う「日本固有のものの紹介」につなげた。
- ・説明の際には場面絵（ピクチャーカード）を用いることで、生徒が文字を見ることなく、学んだこと（音読活動等）を生かしながら他者へと伝達する姿が見られた。

A: Look at the picture. The boy is Daniel. The girl is Mao.  
 They talk about Japanese thing. That is inkstick.  
 Daniel can't use it but Mao can use it. First, put water into your inkstone, then rub the inkstick on the inkstone. But it's hard, so we usually use *bokujū*. We can save the time.  
 (1分間でのリテリング、生徒発表抜粋。下線部については本来 are talking が望ましいが未習である。)



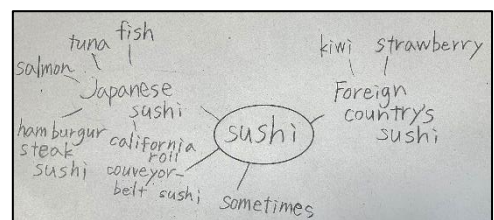
○教科書本文の内容やそれに関連した内容について自分の考えをもち、他者と意見交換する。

- ・リテリングの活動において、最後に1文付け加える形で実施した。生徒によっては、I want to try(play) it.や I don't like *shuji*.(本来は calligraphy ではあるが未習) といった感想を加える生徒や How many cards do you use Japanese *karuta*, *Hyakuninn-Isshu*?のように生徒自身が知っている情報を付け加えながら伝達する姿が見られ、今後の日本文化を伝える際に「付加価値」や「理解してもらえ（理解が深まる）ように伝えるための方法」などを見出している姿が見られた。

### 第5時

○マッピングで自分の考えを整理する。

- ・第1時にて発表した内容をマッピングを用いて整理をした。生徒によっては発表しようと思っていたことを再整理し、情報の順序や伝えるべき内容を書きだし、結び付けている様子が見られた。



○紹介したい日本固有のものや文化についてペアに英語伝達（説明）をする。

- ・マッピングを基に、再整理した内容を基に1分間で相手に伝達した。例えば、第1時に行った生徒については次のような文章が表出されていた。教科書で用いた順序を表す英語表現などを工夫して使う生徒もいた。

生徒 A : *Tendon*

A: This is *Tendon*. Do you know *Tendon*? *Tendon* is a Japanese food. You can make *Tendon* at home. First, you cook *tempura*. Then, you can put *tempura* on the rice. I like it. I sometimes go to (天井店の名前), *Tendon* shop. Please eat delicious *Tendon*. Thank you.

○発表後、聞き手だったパートナーが話者の話を英語で伝え直しをする。

- ・上記の内容で伝達した生徒のパートナーは、次のような伝え直しが行われていた。

生徒 A : *Tendon*

A: You talk about *Tendon*. *Tendon* is a Japanese food and we can make *Tendon* at home. First, you cook *tempura*. Then, you can put *tempura* on the rice. You like it. (天井屋さんの名前), *Tendon* shop is nice.

- ・活動中では、ICT端末を活用し、説明用に作成したプレゼンテーションファイルを学級全員で共有できるように設定することで、相手のスライドを見せながら、伝え直しをする様子が見られた。
- ・活動後に、「どんな工夫を行いながら発表を『聞き』、伝え直したか」を問うと「そもそも何を伝えているか」や「そのものの特徴」を捉えて、説明するようにしたと答える生徒が多かった。



○相手を変えて、再度ペアで発表を行うことを繰り返す。

- ・発表を聞いた後は、相手に伝え直す活動を行ったが、1回目の活動後の中間指導（どんな工夫を行いながら発表を聞いたか、という問い）により、より生徒が意識をして聞くことで、自信をもって伝え直しをする活動に取り組んだ。

○発表がどんな内容であったか、よりよく伝える表現を確認し、共有する。

- ・発表後に生徒が記述していた「よりよく伝える表現」として多かったものが、順序を表す表現 (First,.../Then,...) を使うことや「相手に問いかける表現 (Do you know ○○?)」、 「数字を活用した表現 (They have two good points.)」が挙げられた。相手に問いかけることで、知っている内容は省略できることや、知らなければ説明を加えるということなどが判断できること。また「順序を表す表現」や「数字を活用した表現」については Program 4 で学んだ伝え方の工夫であり、実際に活用することでその利便性にも気づいた生徒が多く見受けられた。
- ・同時に聞くときにもこうした表現が活用されていることで、そのもの自体の特徴などを効果的に押さえることができ、概要をつかむことに効果的であるということを生徒が理解している姿が多く見られた。

○ALTが説明する海外の文化に関する話を聞き、その内容の概要を捉える。

- ・ALTが生徒同様に発表形式で英語による話を行った。その際、生徒はパートナーと行った活動を振り返りながら、話の概要を捉えようと工夫していた。伝えたいものを聞き取り、そのものに必要な物やいつ使うのか、何人必要なのか、といったものを聞き取りながらまとめている様子が見られた。
- ・聞き取った内容をワークシートに書きとらせ、回収を行った。こちらのワークシートについては後述の「パフォーマンス課題」の一つとして扱い、評価等についても後述のものを参考に、「聞くこと」の評価の一部として扱った。



○ALTとの対話を行い、内容について確認をし、共有をする。

- ・生徒から出てきた意見として、「5W1Hの重要性」に触れているものが多かった。結局のところ、what / where / who / how many / how much / when など、既習の事項を用いて相手に尋ねる文章こそ、「重要な要素」であり「特徴」や「そのものの価値」に触れることが多いと気付く生徒が多くいた。他者への伝達時にも、質問されたら回答することは大切だが、先に「5W1Hに関する内容」を相手に伝えることは効果的だということや情報伝達の順番などを Program 4 で学んだ表現を活用すれば、他者へとより効果的に伝えられるということを通して学んでいる様子だった。

9 パフォーマンステスト、ペーパーテスト例

(1) パフォーマンステスト例

「聞くこと」における「思考・判断・表現」を図るパフォーマンステストとして、「ある特定の話者が英語で述べたまとまりのある文章から、必要な情報を聞き取ったり、概要を捉えたりする」形式が重要となる。本課においてはALTが英語で話した伝統文化に関する内容を聞き、その概要を捉える課題を設定した。ここでは例として、以下の発表例を基に確認する。

ALTの発表例：Yu Scheng (シンガポール料理、イーシェン(魚生))		
ALT: This is a dish. People in Singapore and Malaysia eat it in February. In Japan, we eat <i>osechi</i> in New Year but people in Singapore and Malaysia eat this in New Year. It's like a salad and we enjoy fish, <i>sashimi</i> , too. We eat this and we wish our future. And we say "Lo Hei!" and drop the vegetables or fish of salad from above. It's a unique food and culture but it is delicious.		
	採点基準および解答類型	正答
1	ALTが紹介したものの概要を聞き取り、その内容を踏まえて自分の考えや意見を十分理解できる英語(大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるものを含む)で解答しているもの。 (正答例) Yu Scheng is food. It's like a salad and we can enjoy fish, too. I like <i>sashimi</i> so I want to eat it.	◎ (A)
2	ALTが紹介したものの概要を聞き取り、その内容を踏まえて自分の考えや意見を <b>おおむね理解できる</b> 英語(書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがないもの)で解答しているもの。 (正答例) ・ enjoy fish. (主語が欠落している) ・ I <u>wont</u> to eat it. (つづりに誤りがある) ・ A salad and fish. (語や句で解答している) ・ Yu Scheng am food. We eats Yu Scheng. (動詞の活用形に誤りがある)	○ (B)

「おおむね理解できる英語」については、各学校の英語科内で確認をし、基準については統一を図るとよい。

※生徒同士の活動にて「聞いたことを相手に伝え直しをする」際においても同様の採点基準および解答類型を基にして、評価を行うことができる。その際、口頭による伝え直しになるため、ICT端末を活用し、その活動を動画や音声等で記録させ、提出をさせることにより一人一人の活動を見取ることができると考えられる。

(2) ペーパーテスト例

「思考・判断・表現」を評価する問題においては、当該単元で扱った言語材料(以下「特定の言語材料」)を必ず使用しなければならないわけではない。一方で、「知識・技能」の問題においては、特定の言語材料が必然的に使用されるよう、コミュニケーションの目的や場面、状況等を工夫することが重要である。

主に「知識・技能」を評価する問題例（助動詞 can に注目した問題）

次の対話はエミとジョーが、家族の紹介をするために I C T 端末で撮影した写真を見せながら話している場面です。エミがジョーに見せている写真として最も適するものを、下のア、イ、ウ、エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。



Emi: Look at this picture.

Joe: Who are they?

Emi: They are my brother and sister.

Joe: I see. What is his name?

Emi: He is Ryo. He likes eating but he can't cook well.

So, he wants to take a cooking lesson every day.

Joe: That's nice. Then, how about your sister?

Emi: She is Mika. She can draw pictures well. She wants to be an artist.

She practices drawing everyday too.

(ア) 問題作成のポイント

- ・特定の言語材料を使用し、評価問題を作成することで適切に「知識・技能」を評価することができる。
- ・「知識・技能」を評価する問題であっても、実際のコミュニケーションの場面等を設定することが重要である。一つのキーワードだけでなく、話される文章（文）全体の聞き取りが必要な場面設定や、文脈から判断して知識を活用することができるかを評価する問題を作成することが大切になる。

例：【目的及び場面】

エミがジョーに対して家族を紹介するため、英語による対話を行っている。

【状況】

エミがジョーに I C T 端末で撮影した家族の写真を見せている。

改善が必要な例：目的や状況が明確ではない例

次のエミとジョーの対話を聞き、エミがジョーに見せている写真として最も適するものを、下のア、イ、ウ、エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

(イ) 本問題の特徴

- ・エミのきょうだいに関する情報を整理した上で、その内容を基に適切な絵を選択する問題である。
- ・「評価の対象としている文法事項（助動詞 can）」の肯定文と否定文の理解を基に、それぞれの違いや意味合いについて聞き取ることができるか、文脈にも即して判断できるか否かを問う問題である。

主に「思考・判断・表現」を評価する問題例

英語の授業で、スペインからの転入生であるイザベルが自分の国の学校生活について、次の3枚の絵を見せながら発表します。イザベルはア、イ、ウの絵をどのような順番で見せるでしょうか。絵が正しい順番になるように、ア、イ、ウを順に並べ替えなさい。



(スクリプト例)

Hello, everyone. I'm Izabel from Spain. In Spain, we go to school with our parent on foot. We have three classes in the morning and two classes in the afternoon. We have two hours for lunch. Of course, we have lunch at school, but we can go home and have lunch with our family. After school, we don't have a club activity like Japan, but we can enjoy sports with friends.

(ア) 問題作成のポイント

- ・「聞くこと」における「思考・判断・表現」は、話された内容を聞き取った上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、「必要な情報」や「概要」、「要点」を捉えることができるかを評価することである。
- ・パフォーマンステストやペーパーテストにおける「聞くこと」の能力に重点を置いた領域統合型の評価問題においては、他領域の負担を減らし、採点基準の設定に留意する必要がある。
  - 「聞くこと」と「書くこと」の領域統合型の問題の場合
    - ・解答を単語で書かせたり、英文で書かせたりする場合は2～3文程度にしたりして、「書くこと」の負担を減らすこと。(本事例、パフォーマンステスト参照)
  - 「聞くこと」と「話すこと[発表]」の領域統合型の問題の場合
    - ・聞いた内容を他者へと口頭で伝達する際には、聞いたこと全てを口頭伝達するのではなく、概要や要点を他者へと伝達するなど、「話すこと[発表]」の負担を減らすこと。
  - 「聞くこと」と「話すこと[やり取り]」の領域統合型の問題の場合
    - ・概要や要点を捉えるために、聞いたことに関連する質疑応答を行い、自分の意見を整理しまとめたり、相手の意見や考えを捉えたりすることが考えられる。あるいは第三者の話聞いて、自分たちの考えを他者と英語でやり取りし、意見をまとめるなどの活動が考えられる。いずれの場合でも、「聞いたこと」を引用し話を続けるなど「聞くこと」の能力に重点をおくため、発した英語の正確性に対する評価になりすぎないように工夫が必要となる。

改善が必要な例：目的や状況が明確ではない例

スペインからの転入生であるイザベルの話聞き、絵を見せる順番として正しい順番になるように、ア、イ、ウを順番に並べ替えなさい。

(イ) 本問題の特徴

- ・目的や状況、場面を明確に設定し、単元を通して指導してきたこと（まとまりのある文を聞いて、その概要や要点を捉えること）を踏まえた問題である。
- ・当該単元で扱った言語材料を必ず使用しなければならないわけではなく、課題解決のためにコミュニケーションに支障をきたさない英語で書かれているかを問う問題である。